

# こどもの遊び場の現状等について

秋田県次世代・女性活躍支援課

## 1 こどもの遊び場に関するニーズ等

### (1) こどもの遊び場の傾向

他県の成功事例から次の傾向が見られる。

- ・誰でも楽しめるインクルーシブ遊具やARなど先端技術を使った遊具の設置
- ・図書館やスポーツ施設、多世代交流施設、相談機能などの複合施設の増加

### (2) アンケート結果（こども計画策定時の調査）

児童・生徒とその保護者、若者等に行ったアンケートにおいても、遊び場の充実に  
関する意見が多かった。

- ・公園や遊び場をもっと増やして欲しい（児童・生徒）
- ・遊具がもっとあればいい（児童・生徒）
- ・こどもが遊べる場所を増やす（児童・生徒）
- ・山形のようにこどもが遊べる場所が何個かあればいい（若者）
- ・大きな遊具などがある公園ができたら楽しいと思う（若者）
- ・天候に左右されず体を動かすことができる施設が欲しい（保護者）
- ・室内の広い遊び場があるといい（保護者）

## 2 他県の屋内遊び場の状況

### (1) 県外の市町村有施設（山形県の事例）

#### ①くるんと（長井市）2023年9月オープン 延床面積5,746㎡

- ・図書館、屋内遊戯場、屋外ひろば、子育て支援施設、カフェ等を備えた交流施設
- ・総事業費は41億8千万円、民間事業者が建設を行い、市が買い取る手法により整備
- ・来場者数がオープンから約1年半で50万人突破

#### ②コパル（山形市）2022年4月オープン 延床面積3,175㎡

- ・全てのこどもたちが共に遊べる「インクルーシブ」な遊び場
- ・総事業費約38億5千万円、BOT（建設・移管・運営）方式により整備
- ・来場者数がオープンから約2年半で50万人突破

#### ③べにっこひろば（山形市）2015年7月オープン 延床面積2,677㎡

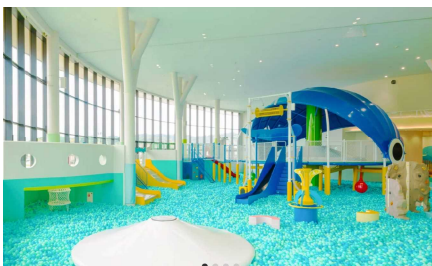
- ・広い遊び場やエアアスレチック等を備えた赤ちゃんから児童まで遊べる施設
- ・民間の資金とノウハウを活用するPFI方式により整備
- ・来場者数がオープンから約9年で200万人突破

#### ④子育て未来館げんキッズ（天童市）2015年5月オープン 延床面積2,226㎡

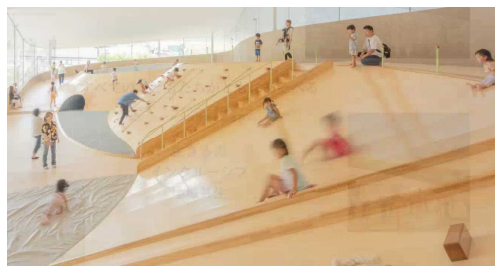
- ・ボールプール、ラ・フランスタワー（すべり台）等を備えた施設
- ・来場者数がオープンから約9年で200万人突破

#### ※キッズドームソライ（鶴岡市）2018年11月オープン 延床面積約2,000㎡

- ・市が整備費用を補助し、民間が事業主体となってその整備・運営を行う有料民営施設、年間の利用者数は約8万5千人



長井市「くるんと」



山形市「コパル」



鶴岡市「キッズドームソライ」

### 3 県内の屋内遊び場の状況

#### (1) 県有施設

①秋田県児童会館（1980 年建設）

目標使用年数 60 年 残年数 15 年

延床面積 5,672.7 m<sup>2</sup>

取得価格 1,368,038 千円

- ・レクリエーションホール、木育ルーム、図書館、  
工作ルーム、プラネタリウム、こども劇場など

②秋田ふるさと村（1993 年建設、観スポーツ部所管）

ワンダーキャッスル、星空探検館スペース（有料）



児童会館レクリエーションホール

#### (2) 市町村施設（未就学児、児童が遊べる施設）

##### 【主な屋内遊び場】

（秋田市） 子育て交流室、自然科学学習館（アルヴェ）

（大館市） つどいの広場ひよこ

（能代市） 子ども館

（由利本荘市） 鳥海山木のおもちゃ館（有料）

（にかほ市） エスパーク★にかほ  
フェライト子ども科学館（有料）

（三種町） 子育て交流施設「みっしゅ」

（八郎潟町） えきまえ交流館「はちパル」

（井川町） 子育て支援多世代交流館「みなくる」



三種町「みっしゅ」

##### 【今後整備予定】

（美郷町）

- ・旧六郷公民館跡地に屋内遊び場、親子のふれあいの場、  
子育て相談の場を整備予定（令和 8 年度オープン）

（大仙市）

- ・神岡中央公園に屋内遊び場施設を整備予定（令和 9 年度オープン）
- ・市が資金調達、民間事業者が設計・建設・運営を行う DBO 方式で実施

（能代市）

- ・こどもの遊び場などを備えた屋内施設を米代川沿いの河畔公園に整備する方針（令和 7 年度中に基本計画策定）



にかほ市「エスパーク」

◎新県立体育館において、こどもが安全に遊ぶことができるキッズコーナー等の設置について事業者との協議を進めていく予定

### 4 県の取組について

#### (1) 遊び場の今後の在り方について

こどもと一緒に遊び場を考えようプロジェクト

こどもや若者自身が主体的に遊び場等について考える機会を提供し、それを取りまとめ、こども・若者の遊び場に関する検討資料とする。

①小・中学生によるワークショップを、県内 3 か所で実施する。

②ワークショップで提案されたアイデアを基に、高校生・大学生等が中心となり、実現可能な分析を加えた提言を取りまとめる。※提言の内容は、この検討委員会にも情報提供する。

### 5 県の考え方

児童会館の機能等の在り方検討委員会の県立児童館としての必要性や、建物の今後について、子どもの遊び場のあり方等についての意見を集約し、今後の方向性を検討する際の指針を今年度中にまとめる予定。